

平成 27 年 3 月 24 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	「第4世代ナトリウム冷却高速炉の安全設計ガイドライン」研究専門委員会第5回会合
開催日時	平成 27 年 3 月 17 日(火) 9:30 ~ 12:00
開催場所	三菱 FBR システムズ 16 階 16B&C 会議室
参加人数	委員 18 名 (山口主査、守田幹事、島川幹事、山野幹事、可児委員、高田委員、斎藤委員、坂場委員、遠藤委員、植田委員、西川委員、小竹委員、中井委員、堺委員、久保委員、岡野委員、戸田委員、神島委員)、常時参加者 7 名、オブザーバー 1 名
議 事	<p>1. SDC/SDG 概況</p> <p>岡野委員より、SDC 国際標準化と SDG 構築のスケジュールや、安全アプローチ SDG の検討状況など SDC/SDG 関連の状況報告がなされた。</p> <p>2. 安全アプローチ SDG の改訂内容</p> <p>久保委員より、各国からの安全アプローチ SDG のコメントに対する改訂内容について、前回会合以降の主な改訂内容の説明があり、炉心損傷の代表的な事故カテゴリ及び DEC 想定事象の名称などの用語の見直しや、炉停止を達成するための要求などの項目の改訂内容を中心に議論がなされた。</p> <p>3. 系統別 SDG の検討状況</p> <p>前回会合において、ガイドの項目に抜けがないかという議論があったため、久保委員より、ガイドの項目の網羅性について、系統別 SDG の位置づけや構成を基に整理している説明がなされた。</p> <p>谷氏より、SFR 特有の事項で、系統横断事項の一つである、Na-水反応の考え方について Na-水反応によるプラントへの影響や、ガイドの記載案について説明があり、議論がなされた。</p> <p>日暮氏より、SFR 特有の事項で、系統横断事項の一つである、Na 漏えい燃焼の考え方についてチャレンジ要因や設計要求、ガイドの記載案について説明があり、議論がなされた。</p> <p>4. その他</p> <p>2015 年春の年会にて、本委員会の報告として、企画セッションを提案している旨が報告された。</p> <p>次回委員会は 2015 年 8 月 20 日開催予定(詳細は別途連絡)。今回は、これまで本委員会で議論した内容を中間報告という形で取り纏めた報告書のドラフト版を提示する。</p> <p>また、本委員会は 2 年間の予定だったが、1 年間の延長申請を行い、2015 年 10 月以降も継続していく予定であることが報告された。</p>
備 考	

平成 26 年 11 月 14 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	「第4世代ナトリウム冷却高速炉の安全設計ガイドライン」研究専門委員会第4回会合
開催日時	平成 26 年 10 月 28 日(火) 13:30 ~ 16:30
開催場所	日本原子力発電株式会社本店 2階 第2、3会議室
参加人数	委員 20 名（山口主査、守田幹事、島川幹事、山野幹事、高田委員、斎藤委員、木倉委員、糸岡委員、松宮委員、坂場委員、遠藤委員、西川委員、小竹委員、与能本委員、中井委員、堺委員、久保委員、岡野委員、戸田委員、神島委員）、常時参加者 9 名
議 事	<p>1. SDC/SDG 概況</p> <p>岡野委員より、GIFにおける SDC タスクフォース会合(10 月)及び SDC レポートに対する国際レビューへの対応状況など SDC/SDG 関連の状況報告があり、議論がなされた。</p> <p>2. 安全アプローチ SDG に対するコメント回答・素案の提示</p> <p>久保委員及び岡野委員より、前回会合にて募集した各委員からの安全アプローチ SDG に対するコメントの回答について、主要な質問について回答の説明及び安全アプローチ SDG 素案の提示があり、設計拡張状態及び実質的に回避されるべき事故状態を中心に議論がなされた。固有安全や重要度分類についても議論がなされた。</p> <p>なお、本委員会で出たコメントを反映した安全アプローチ SDG は GIF の上位会合にて議論され、2015 年春には承認される見込みであるとのことだった。</p> <p>3. 系統別 SDG の検討状況</p> <p>谷氏より、系統別 SDG (炉心系・冷却系・格納系ガイドライン)の策定に係り、論点となると考える事項や、検討の進捗状況について説明があり、議論がなされた。</p> <p>4. その他</p> <p>2015 年春の年会にて、本委員会の報告として、企画セッションを提案している旨が報告された。</p> <p>次回委員会は 2014 年 3 月 6 日開催にて調整。詳細は別途連絡。</p>
備 考	

平成 26 年 8 月 20 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	「第4世代ナトリウム冷却高速炉の安全設計ガイドライン」研究専門委員会第3回会合
開催日時	平成 26 年 7 月 18 日(金) 13:30 ~ 17:00
開催場所	日本原子力発電株式会社本店 2階 第7、8会議室
参加人数	委員 20 名（山口主査、守田幹事、島川幹事、山野幹事、高田委員、斎藤委員、越塚委員、糸岡委員、松宮委員、坂場委員、植田委員、遠藤委員、西川委員、小竹委員、与能本委員、中井委員、堺委員、久保委員、戸田委員、神島委員）、常時参加者 7 名
議 事	<p>1. 検討方法と論点</p> <p>久保委員より、本委員会の検討方針や検討範囲、進め方などの検討方針について説明があった。今後、本委員会では安全アプローチを中心に安全設計クライテリアの設計要件の具体化について議論を行うとの説明があり、議論がなされた。</p> <p>2. SDC/SDG 概況説明</p> <p>中井委員より、第 4 回 GIF-IAEA ナトリウム冷却炉(SFR)安全性ワークショップ及び、第 3 回 GIF 安全設計クライテリア第 2 期タスクフォース会合について SDC 及び SDG に関連した議論や各国の次期 SFR 設計概念の SDC との整合性に関する議論などの概要の報告があり、議論がなされた。</p> <p>3. 安全アプローチ SDG に関する検討</p> <p>久保委員より、安全アプローチ SDG に関する検討として、安全アプローチ SDG の現状と今後の状況報告及び、報告書イメージについて全体構成が提示された。また、SFR の特徴を踏まえて、設計基準事故や設計拡張状態に関する安全設計ガイドラインを構築するにあたって着目すべき事項として、反応度問題、除熱喪失問題の説明、及び、SFR における実質的排除すべきガイドラインの案の修正点について説明があり、議論がなされた</p> <p>島川幹事より、特定ガイドと JSFR の安全対策設備との主要なギャップ分析について説明があり、議論がなされた。</p> <p>4. 米国の GDC の動き、内容及び JAEA からのコメント</p> <p>久保委員より、米国における新型炉用の GDC の策定計画と現状について説明があり、議論がなされた。</p> <p>5. その他</p> <p>今回は安全アプローチのたたき台のレビューということで、本委員会では 8 月末までコメントを募集することとした。コメントをどのように募集するかは後ほど周知する説明がなされた。</p> <p>次回委員会は 2014 年 10 月 28 日開催にて調整。詳細は別途連絡。</p>
備 考	